

# 平成30年度 終了評価書

研究機関 : (株)リクルートライフスタイル、(株)リクルートコミュニケーションズ、  
(株)ATR-Trek

研究開発課題 : グローバルコミュニケーション計画の推進  
-多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-  
II. 多言語音声翻訳の利活用に関する開発・実証

研究開発期間 : 平成 27 ~ 29 年度

代表研究責任者 : 石川 周平

■ 総合評価(5~1の5段階評価) : 評価4

■ 総合評価点 : 22点

## (総論)

研究開発の目的・目標設定は適切であり、実証実験のデータをうまく活用して当初予定の目標を大きく上回って達成したことに加えて、多くの知見を得られている。政策目標(アウトカム目標)の達成に向けて、今後の発展に向けた課題の明確化と、商用化について、長期的な視野を持って進めていくことに期待する。

## (コメント)

- 全体的に計画以上の成果をあげている。実証実験のデータをうまく活用できた点が重要なポイントである。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけに、このプロジェクトの成果が広く普及することを期待したい。
- 研究開発の目的・目標設定は適切であり、目標は当初予定を大きく上回って達成したことに加えて、多く

の知見を得られている。

- 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けて、少し先を見据えつつ発展に向けた課題の明確化と、商用化について長期的な視野を持って進めていくことに期待する。

## (1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価4

### (総論)

研究開発の目的・目標設定は適切であり、技術的な面だけでなく、フィールドワークによって実ユーザの反応を収集し、それを技術の改善にフィードバックする仕組みがうまく機能しており、当初目標の達成に加えて、音声翻訳に求められる精度・UIと商品化可能性について実データに基づき検討できている。

### (コメント)

- 当初目標であった「満足度」「他人に勧めたい率」がともに8割を越していることに加えて商用化に向けての問題点に関するものなど多くの知見が得られている。
- 研究開発の目的・目標設定は適切であり、プロジェクトが進むにつれ、利用者のニーズがコストカットへの対応として新たに判明したことも興味深い成果である。
- 音声翻訳に求められる精度・UIと商品化可能性について実データに基づき検討できている、有効な研究開発であったと認められる。
- 汎用の音声翻訳サービスの出現に対しても優位性を示すアプリケーションもあり、商用化の具体例として期待できる。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて国をあげて言語障壁の克服に取り組んでいるタイミングでこのような研究開発が実施されたことは意義深い。技術的な面だけでなく、フィールドワークによって実ユーザの反応を収集し、それを技術の改善にフィードバックする仕組みがうまく機能している。

## (2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価4

### (総論)

実証実験の実施にあたって実証地域との協力体制などに関して工夫が見られ、フィールドワークで収集したデータを元に、当初予定の導入分野が求める機能と翻訳性能の対比がなされ、効果的にシステムの改修をおこなうサイクルがよく機能している。

### (コメント)

- 実証実験の実施にあたって実証地域との協力体制などに関して工夫が見られ、スムーズな実証実験が可能であったことは評価できる。
- 当初予定の導入分野が求める機能と翻訳性能の対比がなされ自己資金の投入まで行い、次年度以降の事業展開の具体性もあり高く評価できる。
- フィールドワークで収集したデータを元に効果的にシステムの改修をおこなうサイクルがよく機能したと言える。

## (3) 研究開発目標(アウトプット目標)の達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

### (総論)

研究開発という枠組みの中で、利用者の満足度やコーパス構築は数値的に目標を大きく上回って達成し、高く評価できる。

(コメント)

- 研究開発期間中に急速に普及の進んだ OTT(Over The Top:インターネット経由でのサービス提供)による翻訳システムに対する優位性や、新たに導入された翻訳エンジンに対する対応がある中で、研究開発という枠組みの中で、数値的に目標は達成した。
- 調査の範囲では、定量的に達成しており、得られた課題について今後も広く共有できると良い。
- システム利用者の満足度は当初予定の80%を大きく上回っており高く評価できる。
- 必要なコーパス構築も予定以上であり申し分ない。
- フィールドワークからのフィードバックとコーパスの増強などによる技術的な改良を重ね、最終的に当初の数値目標であるユーザ満足度 80%を達成した点は高く評価できる。

#### (4) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

計画であげている「開発」、「利活用」、「改善」、「規模」のいずれの観点からも計画どおり実施できており、今後の展開の予定について具体的な時期の言及もあり評価できる。

(コメント)

- 実証実験の結果は示されており、本実験により明確となった事項の一般化、得られた実証の知識整理に期待する。
- 今後の展開の予定について具体的な時期の言及もあり評価できる。
- 今後どのくらいのコーパスを収集していくのか、コスト面も意識しつつ検討していくことに期待したい。
- 計画であげている「開発」、「利活用」、「改善」、「規模」のいずれの観点からも計画どおり実施できている。

## (5) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた計画

(5～1の5段階評価) : 評価3

### (総論)

目標設定(アウトカム指標)としては妥当だと思われるものの、提案の翻訳システムを誰がどのような場所でどのような目的で使うのかなど、数値目標・調査方法については、指標に見合うものとして取り組み内容を深める検討を期待する。また、今後の発展を考える上での課題の明確化と、商用化については長期的な視野を持って進めていくことに期待する。

### (コメント)

- いろいろ分析を行っているものの、提案の翻訳システムを誰がどのような場所でどのような目的で使うのかを含め、商用化については検討を深めている状況である。
- 今後、商用化については、本プロジェクト成果について特定の方法に拘らず、様々な横展開の検討等、段階的に検討を進めているとのことなので、長期的な視野を持って進めていくことに期待する。
- 近々の展開はできており、今後の発展を考える上での課題の明確化ができると良い。
- 「多言語音声翻訳機能のスタンダード化」と「日本全国へのサービス拡大」はいずれも目標設定(アウトカム指標)としては妥当だと思われるものの、数値目標・調査方法については、指標に見合うものとして取り組み内容を深める検討を期待する。